

ふたご座流星群

ってなあに？

特定の時期に、流星（流れ星）がたくさんあらわれる現象を「流星群」といいます。

流星群には、毎年ほぼ安定して多くの流星が出現するものがあります。



- ・ふたご座流星群（12月）
- ・ペルセウス座流星群（8月）
- ・しぶんぎ座流星群（1月）

この3つの流星群は、特別に三大流星群と呼ばれています。

今年のふたご座流星群

国立天文台によると、活動が活発になるのは、12月14日（水）の22時ごろです。

三大流星群のなかでも、毎年、多くの流星が見られるので、流星を初めて見てもみようという人にもおすすめです。

観察場所	見られる流星数 (1時間あたり)
空の暗い場所	およそ40~45個
月明かりのある場所	およそ30個

おすすめの観察時間

12月14日（水）の21時～真夜中0時

流星と彗星の関係

流星（流れ星）とは、宇宙空間にある小さなチリが地球の大気に飛び込み、大気と激しく衝突し、光を放つ現象です。

彗星（すいせい）が通過した道にはこのようなチリの粒が集まっています。この道を地球が通過することで、チリの粒がまとめて地球の大気に飛び込み、たくさんの流星が見られるのです。

地球が彗星の軌道を横切る日時は、毎年ほぼ決まっていますので、毎年おなじ時期に流星群が出現するわけです。

ふたご座流星群のもととなる彗星は、小惑星「フェートン」だと考えられています。かつて彗星だったこの星は、現在では水蒸気やチリを出し、小惑星になったと考えられています。

ふたご座流星群の観察の仕方

年間で最大の出現数を誇り、好条件では1時間に約100個観察できます。

冬の星座「ふたご座」の2等星「カストル」の付近から、四方八方に流星が飛び出してくるようになります。

ふたご座流星群は、夜空全体に出現する特徴があるので、方角を気にする必要はありません。なるべく街明かりのない暗い夜空を眺めると良いでしょう。

防寒対策をしっかりとこない、最低でも15分間程度は、夜空全体の観察を続けてみましょう。

ふたご座流星群

ってなあに？

特定の時期に、流星（流れ星）がたくさんあらわれる現象を「流星群」といいます。

流星群には、毎年ほぼ安定して多くの流星が出現するものがあります。



- ・ふたご座流星群（12月）
- ・ペルセウス座流星群（8月）
- ・しぶんぎ座流星群（1月）

この3つの流星群は、特別に三大流星群と呼ばれています。

今年のふたご座流星群

国立天文台によると、活動が活発になるのは、12月14日（水）の22時ごろです。

三大流星群のなかでも、毎年、多くの流星が見られるので、流星を初めて見てもみようという人にもおすすめです。

観察場所	見られる流星数 (1時間あたり)
空の暗い場所	およそ40~45個
月明かりのある場所	およそ30個

おすすめの観察時間

12月14日（水）の21時～真夜中0時

流星と彗星の関係

流星（流れ星）とは、宇宙空間にある小さなチリが地球の大気に飛び込み、大気と激しく衝突し、光を放つ現象です。

彗星（すいせい）が通過した道にはこのようなチリの粒が集まっています。この道を地球が通過することで、チリの粒がまとめて地球の大気に飛び込み、たくさんの流星が見られるのです。

地球が彗星の軌道を横切る日時は、毎年ほぼ決まっていますので、毎年おなじ時期に流星群が出現するわけです。

ふたご座流星群のもととなる彗星は、小惑星「フェートン」だと考えられています。かつて彗星だったこの星は、現在では水蒸気やチリを出し、小惑星になったと考えられています。

ふたご座流星群の観察の仕方

年間で最大の出現数を誇り、好条件では1時間に約100個観察できます。

冬の星座「ふたご座」の2等星「カストル」の付近から、四方八方に流星が飛び出してくるようになります。

ふたご座流星群は、夜空全体に出現する特徴があるので、方角を気にする必要はありません。なるべく街明かりのない暗い夜空を眺めると良いでしょう。

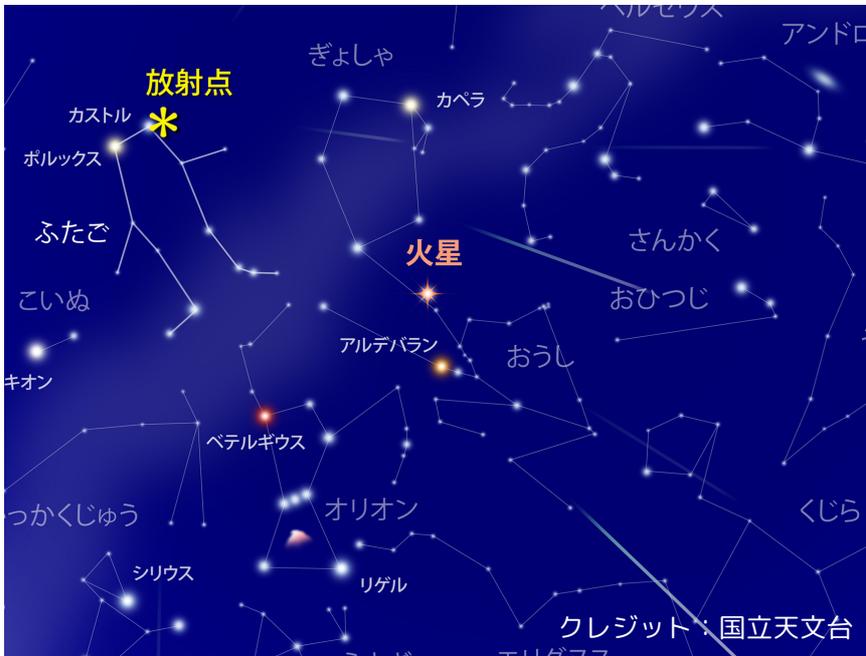
防寒対策をしっかりとこない、最低でも15分間程度は、夜空全体の観察を続けてみましょう。

ふたご座流星群

ってなあに？

特定の時期に、流星（流れ星）がたくさんあらわれる現象を「流星群」といいます。

流星群には、毎年ほぼ安定して多くの流星が出現するものがあります。



- ・ふたご座流星群（12月）
- ・ペルセウス座流星群（8月）
- ・しぶんぎ座流星群（1月）

この3つの流星群は、特別に三大流星群と呼ばれています。

今年のふたご座流星群

国立天文台によると、活動が活発になるのは、12月14日（水）の22時ごろです。

三大流星群のなかでも、毎年、多くの流星が見られるので、流星を初めて見ようという人にもおすすめです。

観察場所	見られる流星数 (1時間あたり)
空の暗い場所	およそ40~45個
月明かりのある場所	およそ30個

おすすめの観察時間

12月14日（水）の21時～真夜中0時

流星と彗星の関係

流星（流れ星）とは、宇宙空間にある小さなチリが地球の大気に飛び込み、大気と激しく衝突し、光を放つ現象です。

彗星（すいせい）が通過した道にはこのようなチリの粒が集まっています。この道を地球が通過することで、チリの粒がまとめて地球の大気に飛び込み、たくさんの流星が見られるのです。

地球が彗星の軌道を横切る日時は、毎年ほぼ決まっていますので、毎年おなじ時期に流星群が出現するわけです。

ふたご座流星群のもととなる彗星は、小惑星「フェートン」だと考えられています。かつて彗星だったこの星は、現在では水蒸気やチリを出し、小惑星になったと考えられています。

ふたご座流星群の観察の仕方

年間で最大の出現数を誇り、好条件では1時間に約100個観察できます。

冬の星座「ふたご座」の2等星「カストル」の付近から、四方八方に流星が飛び出してくるようになります。

ふたご座流星群は、夜空全体に出現する特徴があるので、方角を気にする必要はありません。なるべく街明かりのない暗い夜空を眺めると良いでしょう。

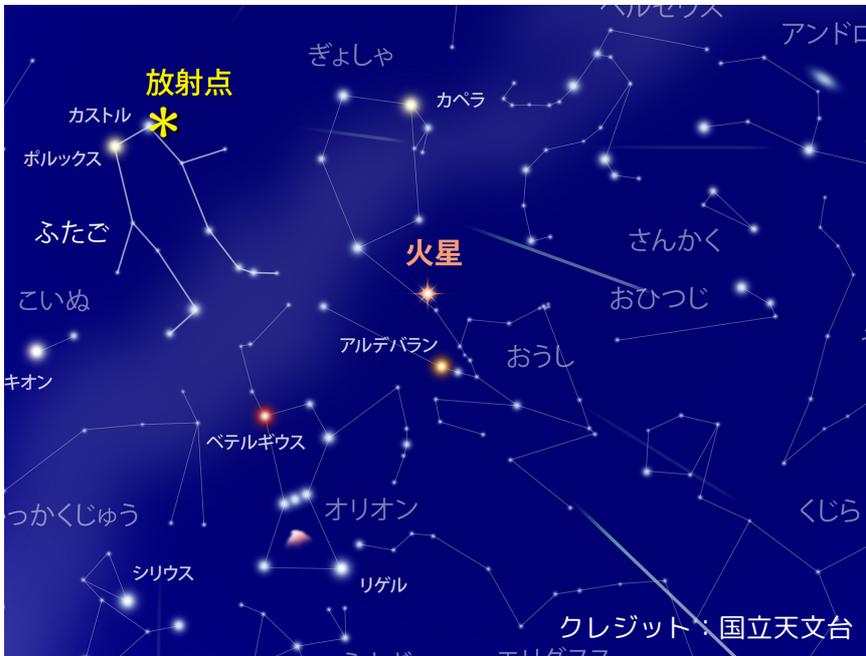
防寒対策をしっかりとこない、最低でも15分間程度は、夜空全体の観察を続けてみましょう。

ふたご座流星群

ってなあに？

特定の時期に、流星（流れ星）がたくさんあらわれる現象を「流星群」といいます。

流星群には、毎年ほぼ安定して多くの流星が出現するものがあります。



- ・ふたご座流星群（12月）
- ・ペルセウス座流星群（8月）
- ・しぶんぎ座流星群（1月）

この3つの流星群は、特別に三大流星群と呼ばれています。

今年のふたご座流星群

国立天文台によると、活動が活発になるのは、12月14日（水）の22時ごろです。

三大流星群のなかでも、毎年、多くの流星が見られるので、流星を初めて見てもみようという人にもおすすめです。

観察場所	見られる流星数 (1時間あたり)
空の暗い場所	およそ40~45個
月明かりのある場所	およそ30個

おすすめの観察時間

12月14日（水）の21時～真夜中0時

流星と彗星の関係

流星（流れ星）とは、宇宙空間にある小さなチリが地球の大気に飛び込み、大気と激しく衝突し、光を放つ現象です。

彗星（すいせい）が通過した道にはこのようなチリの粒が集まっています。この道を地球が通過することで、チリの粒がまとめて地球の大気に飛び込み、たくさんの流星が見られるのです。

地球が彗星の軌道を横切る日時は、毎年ほぼ決まっているので、毎年おなじ時期に流星群が出現するわけです。

ふたご座流星群のもととなる彗星は、小惑星「フェートン」だと考えられています。かつて彗星だったこの星は、現在では水蒸気やチリを出し、小惑星になったと考えられています。

ふたご座流星群の観察の仕方

年間で最大の出現数を誇り、好条件では1時間に約100個観察できます。

冬の星座「ふたご座」の2等星「カストル」の付近から、四方八方に流星が飛び出してくるようになります。

ふたご座流星群は、夜空全体に出現する特徴があるので、方角を気にする必要はありません。なるべく街明かりのない暗い夜空を眺めると良いでしょう。

防寒対策をしっかりとこない、最低でも15分間程度は、夜空全体の観察を続けてみましょう。